

No.100

2016(平成28)年

11月1日

発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組

責任者

藤本使朗



とにかく
お慈悲の力は

ぬくいであ

妙好人 因幡の源左



楽しく遊んだあとはみんなでお掃除！（日高組キッズサンガにて）

日高組報「ひかり」
一〇〇号発刊によせて

日高組組長 藤本 使朗

「仏法を聞くとは、自己を聞くことである」と昭和58年8月1日に第1号冒頭の言葉で始まった組報「ひかり」が今年11月1日、すでに33年が過ぎ、ここに一〇〇号を数える節目を迎えました。これを、組を挙げてお喜び申し上げます。

「ひかり」発刊のおこりは、日高組の教化推進活動において、組内門信徒の皆様に関心を持っていただき、積極的にご参加いただいたご思いであつたと聞き及んでおります。

また、時代の変化とともに寺院との関わりも形態も変化し、ご自宅においても寺院活動に興味を持っていただくご縁として、文書伝道に力を注ぐというものでもありました。

さらにはご門徒向けに作成される投稿や取材などが住職僧侶の研鑽にもつながり、爾来、年3回休むことなく発刊を続けてこられましたことは、歴代広報担当者の並々ならぬご苦労のたまものであると有り難く厚く御礼申し上げます。

16年前の平成12年には「ひかり」50号発刊記念が盛大に開催され、21世紀の新たな展開として、その後現在まで掲載内容の変更などを重ね、また紙面のカラー化やインターネット発信に至る成長を遂げることができました。

しかしながら、発行部数の伸び悩みも大きな課題であります。当地日高組は過疎地域であり、地域社会の活力低下や門信徒の生活維持が困難な中で、寺院活動の存続そのものが困難な局面を迎えております。

子ども若者をはじめ、壮年会、婦人会など幅広い層にまで「ひかり」発刊を毎回楽しみにされ、ご愛読いただけるよう一層力を注がなければならぬと考える次第であります。

今後ともご理解ご支援を賜りたくお願い申し上げます。ひかり発刊によせてご挨拶いたします。

日高組報「ひかり」100号までの歩み
 広報部長 松本秀法

日高組報「ひかり」第1号が昭和58年8月に発行されてから33年が経過し、平成28年11月1日に100号を数えるに至りました。この「ひかり」の発行は、情報化社会に即応して昭和58年度の日高組教化部門に新たに広報部が設けられ、編集委員会を結成して年3回発行の広報紙としてスタートしました。タイトル「ひかり」は、組内各門徒一人ひとりの心の「光明(ひかり)」となればという願いから名付けられました。紙面は、B5版4面(見開き)、モノクロで伝道に重点を置いた内容としました。1面は、組内行事の写真と「如是我聞」その後、「正信偈講話」「阿弥陀経に聞く」「御文章のお話」など仏典の解説を連載しました。2面は、「法話」「門徒心得」「ことわざ辞典」(後に「真宗豆辞典」)など浄土真宗のみ教えに関する記事を掲載し、その後の「連研だより」では連続研修のテーマや話し合いについて「私の問い」として受講者以外の方々にも考えていただく内容としました。3面は、「人生行路」や「迷信」と「寺院訪問」では組内各寺院の由緒沿革と任職の紹介を掲載し、後には、読者からの投稿や「速夜参りの風景」なども掲載しました。4面は、「よろこび家族」「この人」などで門徒の紹介、その後「仏婦訪問」として各寺院の仏教婦人会の活動の紹介、そして「日高組通信」で組教化団体の活動報告と予定をお知らせする構成としました。平成8年の39号からサイズをA4版とし、文字を大きくして読みやすくするとともに新たに「法悦クイズ」を設けました。

「ひかり」第1号「ひかり」の題字は発行責任者で当時の組長、長覚寺亀井眞雄師。現在も亀井師の題字を使用している。日高組仏教婦人会の研修会でのスナップ写真が一面の顔となった。4面ご門徒の顔写真は「よろこび家族」川口春男・衣子夫妻(衣奈)、「この人」宮崎徳雄さん(糸谷)が掲載された。



記念すべき第1号は白黒B5版でのスタート!

自らの 内なる差別 気づきたい

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話
 其の四 永原智行

ヒダカ 蓮如さんがご門主になられて大改革が始まったんだ。
 ひかり どうな改革?
 ヒダカ 蓮如さんは、天台宗の所属であることをやめるために、天台宗のお寺として当然あった仏様やお経を取り除かれ、お風呂をたくたびに焼き払ったんだ。
 ひかり えらく思い切ったことを・・・。
 ひかり 浄土真宗の独立宣言だね。ほかには、本堂にあった上段を取り払い、平座として、参詣の人と分け隔てなくされたんだ。
 ひかり 厳しい身分社会の時代であったことを思うと、ものすごい改革をされたんやねえ。
 ヒダカ 本願寺の歴史を簡単に言うと、蓮如さんがさっき言ったように過激な改革をしたり、本願寺に多くの人がお参りをするようにになると、比叡山延暦寺(天台宗の本山)が黙ってはいなかったんだ。一四六五年に僧兵らが、「仏敵、神敵」と叫び本願寺を破壊しに来たんだ。いったんは、多額の札銭を積んで解決したが、その三月に再度襲撃して、完全に破壊したんだ。
 その後、福井県と石川県境の吉崎に移り、さらに京都山科に移った。
 蓮如上人後、十六世紀に大坂の石山本願寺に移り、織田信長と合戦を経て、鷲ノ森(現在の鷲森別院)に移り、豊臣秀吉の寺領寄進により現在の京都堀川に移った。
 第十一代蓮如上人が没すると、後継問題がおこり、本願寺は蓮如の末子准如さんの本願寺派(西本願寺)と、長子教如さんの大谷派(東本願寺)とに分裂したんだ。
 ひかり へえー。ふーん。
 ヒダカ ということから、現在の土地に本願寺ができて、四百年。蓮如さんが亡くなって五百年。京都から本願寺が撤退したのはちょうどその間の百年。その間、本願寺は京都になかったんだ。
 ひかり 本願寺が京都から追い出されている、じゃなかった、撤退している間、蓮如さんは何をしていたの?
 ヒダカ 見守られず、期待されず、願われなかった蓮如さんは、「必ずや願われ、見守られ、励まされている私に気づき、この思いを誰にも伝えたいという志を立てられる。その思いから、手紙で各地のご門徒に、親鸞聖人のみ教えを広められただんだ。
 ひかり 『御文章』ができたのね。

クイズの答えとともに寄せられる感想や意見を「読者の声」として掲載しています。さらに、平成19年の72号から1面と4面をカラーにし、4面には新たに「日高組寺院めぐり」として各寺院の写真とともに沿革や年間行事等を掲載しました。また、平成18年の69号から本願寺鷲森別院・和歌山教区教務所のホームページの「各組活動紹介」欄に日高組報「ひかり」が掲載されることになりインターネットで閲覧できるようになりました。さらに、平成25年からは、組独自の「日高組ホームページ」を開設し、組報「ひかり」をはじめ、各教化団体のページ、組の活動内容などを掲載し、いつでもどこでも閲覧できるようにしました。発行部数は当初は一二〇〇部程度でスタートし、一時は一五八五部になりましたが現在は一二五〇部となっています。今回の一〇〇号を機縁に新たにA4版8ページの全面カラーとし、文字の大きさや写真等を含め多様な構成としてより多くの方に購読していただけるように紙面の充実を図っていきたいと思います。

よろこび家族

私(子供)の頃、大引浄明寺の鐘の音を、頭の真上で聞きながら大きくなりました。母に連れられてよくお寺参りし、膝に抱かれて高座を眺めていたこと。明日は名高い先生の説教があるのだと楽しみに話していたこと。

母の姿など今も心の奥に残っています。戦後ご縁により日高組の門徒になりました。い、何もわからぬままに、母の末裔を継いでいます。この度の本堂改築に当たって、有縁の方々の厚い御支援の念には心から感謝しています。

家族構成

由良町 衣奈
川口 春男 (65才)
妻 衣子 (61才)

この人

「若い頃は、門徒時代でありながらお参りして寺にもあまりお参りしなかったことなりました。お参りして、晩年になって浄土真宗のみ教えに心をひかれるようになったのは幼い頃に私を育ててくださった日高組報、そして高座、ひいては一切衆生を救うがため御苦勞くださった如来さまの御恩のおかげです。」

院と善んでおられる宮崎徳雄さん。昭和四十五年日高組に門徒推薦協議会が結成されてからはその会長として、昭和五十六年から仏教社会連盟理事として活躍されています。

昭和五十三年には、門徒推薦協議会を結成し、現任では本山に登録された門徒を推薦して研修活動や寺務会連盟理事として活躍されています。

院での法座活動に意欲的に取り組んでおられます。今一番楽しいことはお聞きしますと仏書を読むこと、お互いが開法のお話もつと、そして機会があればは御開法や蓮如さんの遺跡を訪ねることだそうです。

阿彌陀如来の本願に生かされている私たちが、その恵みを受けていることに感謝し、お参りして、お話しを聞かせていただきます。

光台寺 門徒 宮崎徳雄さん

創刊号の4面には光台寺宮崎さんが「この人」で、川口さん夫妻が「よろこび家族」で投稿いただきました。

浄土真宗の信心はどれでしょう? 次の1~3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. 仏の救いを疑わなくなった心
2. 雑念を払い、心を集中すること
3. あれこれ考えず信じ込むこと

99号の正解は、「3. 仏さまを讃(たた)え、お心に触れるため」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 坊岡 和美 様	由良町 小林 民子 様
由良町 坂田 博美 様	由良町 久保千代子 様
由良町 岩崎 信子 様	由良町 浜崎 礼子 様
由良町 松下 光男 様	由良町 中口小夜美 様
由良町 井口きよみ 様	由良町 亀岡市 佐々木弥生 様

〒649-1221 和歌山県日高郡 日高町志賀2988番地 妙願寺内 日高組事務所 宛

☆抽選で10名の方に粗品を進呈します。

締切 平成29年1月20日(必着)

発表は次号です

法悦クイズ

お寺が子どもの居場所に



自作水鉄砲の威力はいかが？誰のが勢いよく飛ぶのかな？



最後に みんなで はいポーズ！

自らの 内なる差別 気づきたい

「キッズサンガ」を終えて、この行事が阿弥陀さまと子どもたちのご縁づくりの役割を担う重要な活動であることを実感しました。子どもたちにとって「お寺が子どもの居場所」であることに気づいていただけるよう、より多くの参加を目指し、より工夫したものにしたいと思っています。

←さあ、みんなでお礼の雑巾がけを始めるぞ！
見事なスタートダッシュでした！

最後に、「日高組キッズサンガ」を子どもだけの活動にせず、世代を超えてつどい、阿弥陀さまのご縁に遇うことのできる活動として取り組んでゆくと、阿弥陀さまの願いを聞いてゆける次世代を担う若者に育ってゆくものだと再認識できました。あらゆる世代の人々がお寺につどい、全員で「仏のこども」の育成につながる活動を続けられるよう、今後もさらに努力していきたいです。
(報告者 青少年部長 荻野益次)

キッズサンガIN長覚寺2016



初めて本堂に入る子どもも、最初は戸惑いながらもお友達と一緒に正座して合掌礼拝ではじまりました！

日高組主催「キッズサンガ」(子どもの集い)が8月20日、日高町比井の長覚寺で開催され、児童23名が教化団体関係者48名とともに猛暑の中、本堂・境内を舞台に楽しい一日を過ごしました。
日程の「はじめの」では、全員が本堂に集合、正座をして合掌・礼拝の作法を学び、元氣よく「らいはいのうた」をおつとめました。
「三つの約束」を全員で唱和したあと、「きく」の部では藤本組長が登壇、「今日一日を楽しんで、夏の良い思い出にしてくださいね。」と話されました。

教化団体も参加してのキッズサンガ。「あそぶ」では身体を動かすゲームです。仏教婦人会のみなさんで「かるた」を担当、読み上げるたびに立ち上がり、競うように激しく取り合いする場面も、しかし楽しく盛り上がったかたるた取りでした。お昼になり、「たべる」では、寺族婦人会のみなさんが汗だくになりながら煮込んだ特製のカレーライスを参加者全員で「いただきます！」「食事のことはでおいしいください、」「ごちそうさま！」かき氷も子どもたちには好評でした。
「つくる」では、竹製の水鉄砲が製作され、作った鉄砲で的当てをして楽しみました。最後は今回会所としてお世話になったお寺に感謝の気持ちを入れて全員で本堂の畳と床の拭き掃除！最後まで動きっぱなしで「疲れた」との声も出ましたが、賑やかな声が一日中境内に響き渡りました。



全身を使ってさあ こい！



仏教婦人会のスタッフも童心に戻り、輪の中で一緒にじゃんけん！

↑寺族婦人会も酷暑の中で汗だくになりながらカレーづくりで参画、そんな日向でせんと日陰でやろうよ！

平等に 光をあびて 命いただく

専如門主伝灯奉告法要はじまる

来年5月まで
10期80日間



10/1 法要当日、おあさじにて↑

10月1日、第二十五代専如門主伝灯奉告法要団体が参拝が京都本願寺で始まりました。日高組からこの日、組代表として藤本使朗組長が参拝、8日には組団参のトップを切って阿戸教専寺から45名が貸し切りバスで参拝した。この法要を機縁に、お念仏のみ教えが広く伝わることを願い、お念仏の伝え方や、浄土真宗の門徒としての生き方、私の歩む道、宗教の必要性などを次世代に繋げるためにも多くのご参拝をお願いしたい。



バス同乗者四十五人、大谷本願寺参拝者合計七十三名の大参拝団(教専寺) 10/8



10/1 ライトアップされた本願寺



よろこび家族

へお浄土があつてよかつた

江ノ駒 専福寺門徒 藤本 豊子さん
「ひかり」五十号の「よろこび家族」に、家族写真と文が載せられています。あれから十六年、息子にも家族が出来、九年前に帰って来てくれました。

夫が、六年前に亡くなりました。夫は、専福寺門徒総代(責任役員を十七年間)、私は仏教婦人会役員を七年間務めました。夫が亡くなってから、お経を唱えるのが日課になりました。お経は自分に聞かせるものであると聞いたことがあります。自分にもわかる言葉で申したいと思ひ、和文の「讃仏偈(さんぶつげ)」、「重誓偈(じゅうせいげ)」、「正信偈(しょうしんげ)」に致しました。

夫が亡くなって、「お浄土はあるのか」ということが、私にとって大きな問題となりました。「先に亡くなった人に会える所がお浄土だ」とのご法話を聞いた時、そんなことはあり得ないと思ひました。毎日、お経を申しているうちに、ひよっとしたらあるのかも知れないと思うようになり、そのことが不思議に思えてなりません。

専福寺のご住職から、「阿弥陀(あみだ)経(きょう)』にある「俱会一処(くわいいつしよ)」(ともに会えるところ)という語を覚えて頂きました。

また、お友達からお聞きになった話として、日頃から「お浄土」なんて無いと言っていたお医者さんが、娘さんを亡くされたから、「お浄土が無かったらあの娘は、どこに居るんや。お浄土があつてよかつたよ」と話してくださいました。そのお医者さんの思うことと、私のそれと同じだと感じています。

夫の死から六年経った今頃になって、「お浄土」はあるのだと味わえるようになりました。人は皆、大切な人を亡くして「お浄土があつてよかつた」と味わえるようになるのかも知れません。

それは、きっと、亡くなった方からの贈り物でありましよう。その贈り物を有難く頂いて、安らかな気持ちでこれからの日々を送りたいと思ひます。

今、息子は班役員になり、お寺へ足を運ぶようになりました。先祖の人達がそうであったように、お法(みのり)を深く味わい、次代へ伝えていくことを念じます。



右から藤本敦也くん(兄)和久さん、豊子さん、雅美さん、圭亮くん(弟)

お知らせ

ひかり編集委員会では、今号以降も紙面を8面で発行するため、日頃の寺院活動などの情報提供をお願いしています。寺院独自の法座やイベントなど、情報提供いただけますようご協力をお願いします。紙面及びホームページに掲載させていただきます。希望される方は、日高組メール hidakaso1712@gmail.com まで送信をお願いします。

また、「ひかり」に関するご意見ご感想など、法悦クイズとともにどしどしご投稿ください。

ハガキまたは、ホームページからご投稿いただけます。

読者の声

※99号のひかりを見て降誕会の「やなせなな」さんのすばらしい法話を思い出ししました。

※ヒダカくん、ひかりちゃんの話、わかりやすく読みやすいので、楽しみにしています。

※専如ご門主様のお姿を拝見させていただきありがとうございます。総代をやめてからひかりを手にする機会がなかったため、久しぶりに拝読できた事に感謝しております。

※毎日仏様に念仏称えて感謝しています。おかげさまで。

※7月号では表紙に教専寺さんのをせて頂き、当時のやなせさんのご法義と歌を思い出し、心がホッとなごむ思いでした。

春に、和歌山鷲森別院のお掃除に参加させて頂きたい体験でした。

十月には教専寺さんの団体参拝に参加するのを楽しみにしています。

門徒心得

「香(お線香)」

お葬式も終わり、初七日から七日毎にお参りさせて頂いたと、香炉に線香を立てている場面を見かけます。

故人を偲び、お参りされる方の中には、宗旨が異なる方もおられることからかも知れませんが、浄土真宗ではお線香を立てずに香炉の大きさに合わせて二〜三本に折って、寝かせてくべるようにしましょう。

お香を用いる起源は古いようですが、お香を身体に塗る塗香(ずこう)で体臭を消したり、香を焚くことでその場所に清らかな香りを漂わせるために用いられました。

線香をなせ立てるのか、一説には、立てた線香に死者の霊魂が宿り、煙と共に成仏するといふ民間信仰からといわれます。その是非はともかく、立てて用いると倒れる恐れがあります。実際に倒れて火災になった実例があります。

お香の焚き方は、線香が手に入る以前は然香(ねんこう)といつて、香炉の灰に専用の型を使って凹部をつくり、そこに抹香を線状に入れ、端に着火して用いていました。その手間を省くために、棒状に練った線香が作られたと考えられます。

短く折って香炉に入ると短時間で消えることから、立てて用いるようになったのではないのでしょうか。

いずれにせよ、線香は立てずに寝かせましょう。



立っている線香を見かけたら、折って香炉に寝かせましょう。(鈴木)

お寺でフルーツカッティング(7/31・8/7)



第二弾「お寺でフルーツカッティング」が昨年九月に引き続き、今年も日高組主催で組内2ヶ寺を会場に開催されました。7月31日(日)は志賀即生寺において町内外から15名の参加者が集い、8月7日(日)には江ノ駒専福寺において、5名のご参加でした。地元産のメロンやキウイフルーツなどを要領よく切り分け、盛り付けて、鮮やかな色彩とゴージャスな飾り付けがなされ、参加者も楽しく過ごすイベントとなりました。

講師は田辺市のプチ・スマイル代表の新谷睦子さん。手際よく切りながらも所要所で食べ物、命の尊さを語る。食材を粗末にしない、無駄なく使用することなどさりげない言葉で伝えられました。幼児をつれた母親や初めてお寺に来たという参加者に感想を聞くと、「境内に入ったことも初めての活動やイベントをしていただき、魅力を感じた」「本堂という暗いイメージでしたが、仏様が金色に輝き、心洗われる思いでした」と喜んでいました。日高組では今後も実践運動「子ども若者ご縁づくり」の一環で、お寺にご縁を結ぶ「若者へのアプローチ」として、様々なイベントを企画して実践運動を展開してゆく方針です。

日高組通信

☆行事報告

◎キッズサンガIN長覚寺

8月20日、比井長覚寺にて日高組主催キッズサンガ「子どものつどい」が開催されました。(4・5面に当日の詳細記事を掲載)

◎第三ブロック門信徒総研修会

(聞法つどい)

9月3日(土)、教区主催第三ブロック(日高・御坊・紀南組)門信徒総研修会(聞法つどい)が紀伊田辺シティプラザホテルで開催され、総勢三〇〇名の門信徒が聴聞しました。日高組からは貸し切りバスもだし、約40名が参加しました。

◎第10回、第11回日高組連続研修会

(れんけん)

8月6日に第10回れんけんを日高別院にて、10月1日に第11回れんけんを志賀妙願寺にて開催しました。

◎第二十五代専如門主伝灯奉告法要

団体参拝が始まりました

(寺院単位)

日高組のトップを切って教専寺(阿戸)団体参拝が10月8日に45名、長覚寺・一行寺(比井)・円照寺(津久野)団体参拝が10月23日に40名が、本願寺に参拝しました。

両参拝団は、大谷本廟(おおたにほんびょう)にも参拝し、納骨も行いました。

11月5日には妙願寺(志賀)30名が団体参拝することになっています。

☆行事予定

◎第22回日高組「真宗法座」

(第9期連続研修了式・組報ひかり発刊一〇〇号記念法座)

日高組主催第22回「真宗法座」を次の通り開催します。なお、今回は第9期連続研修受講者の「れんけん修了式」と組報ひかり一〇〇号発刊記念の法座を併修いたします。

日時 12月11日(日)午後1時半から
会場 蓮専寺(由良町里)
講師 佐々木隆晃師

相愛大学准教授
多くのご参加をお待ちしています。ご近所お誘い合わせご一緒に聴聞しましょう。

◎日高組主催、第二十五代専如門主伝灯奉告法要団体参拝

既にご案内の通り、3月12日(日)由良町、4月26日(水)日高町の両日に、日高組主催で伝灯奉告法要団体参拝が実施されます。3月の由良町対象の参拝団では、現在若干空きがあり、参拝希望者される方は至急、お手次のお寺までお申し込み下さい。

